

Partner

[パートナー]

Vol.05
2022.MAR

KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・口腔外科部長・

水沼 秀之

総合病院の口腔外科として

合併症患者の処置も可能



・形成外科科長・

作井 智子

さまざまな創傷の治癒が早まる

局所陰圧閉鎖療法 (NPWT)



紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》

TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

紹介状持参患者様 予約取得フロー

医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)

受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。

FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)

※FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。

・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。
(できる限り15分以内にご連絡します)

※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。

予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、ご案内をお願いいたします。

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
 - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
 - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00迄)日・祝を除く
 - ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)*
 - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)*
- ※月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く

各科緊急連絡先





・形成外科科長・
作井 智子
日本形成外科学会専門医

ピックアップドクター

Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える

・口腔外科部長・
水沼 秀之

歯学博士（口腔外科）
歯科医師臨床研修指導医
（公社）日本口腔外科学会 会員
（公社）日本顎顔面インプラント学会 会員



口腔外科の診療体制が変更

2021年1月より口腔外科の診療体制が大幅に変更になり、歯科医師1名、診療台1台となりました。そのため、以前は診療を行っていた顔面外傷（顎骨骨折を含む）、顎変形症、重症歯性感染症等の疾患の受け入れが困難となりました。

また、外来診療は月曜日、火曜日、木曜日のPM、第一、第三金曜AM・PM、土曜日AMとなります。午前中はオペのため外来不在となります。休診日は水曜日、日曜・祝日、土曜PMです（表1）。

総合病院の口腔外科として合併症患者の処置も可能

■表1 口腔外科外来

	月	火	水	木	金	土	日
午前	—	—	休	—	第1・3	○	休
午後	○	○	休	○	第1・3	休	休

■表2 口腔外科で受け入れ可能な疾患

・埋伏歯抜歯
・合併症患者様（いわゆる有病者）の処置（抜歯外科処置等）
・口腔粘膜疾患（口内炎、口腔扁平苔癬、白板症等）
・顎関節疾患（顎関節脱臼、顎関節症）
・嚢胞性疾患（顎骨嚢胞、粘液貯留嚢胞）
・口腔腫瘍（悪性は診断のみ）



特に糖尿病性潰瘍に

十分なエビデンスがあり推奨

当院形成外科で取り扱っている疾患としては、皮膚腫瘍や皮下腫瘍、熱傷外傷、眼瞼下垂症、ケロイドなどがあります。その中でも、近年は糖尿病罹患率の上昇や高齢化により、難治性潰瘍や褥瘡の患者さんが多くなってきています。当院では、そのような静脈性下腿潰瘍、外傷、褥瘡、糖尿病性潰瘍、術後離創などの患者さんに対し、積極的に局所陰圧閉鎖療法（NPWT）を使用しています。

NPWTは1990年代に米国で始まった比較的新しい治療方法であり、わが国でも2010年より保険適応となるとともにNPWT専用装置が上市され、現在『V・A・C・治療システム』や『RENASYS創傷治療

システム』などが使用されています。

NPWTの作用機序は、①創縁を引き寄せて創収縮を促進、②過剰な滲出液を除去することで適切な湿潤環境を保つ、③陰圧による物理的刺激により肉芽形成や血管新生の促進、④吸引による細菌量の減少、⑤陰圧による局所血流量の増加、などによって治癒が早まるといわれています。NPWTのエビデンスとしては、いくつもの論文でさまざまな創傷に対する有効性（治癒率の早さ、合併症の少なさ、医療コストの削減など）が報告されており、特に糖尿病性潰瘍では十分な根拠があり推奨されています。

局所感染および汚染の疑いのある創傷に対しても適用

従来のNPWTは感染が制御され

た創傷にしか適用できませんでしたが、2017年からは局所感染および汚染の疑いのある創傷に対しても、洗浄液周期的自動注入機能が付いた『V・A・C・Ultra治療システム』が使用できるようになりました。

また、壊死組織や感染組織が多い場合は入院の上での管理が必要になります。浸出液が比較的少ない場合は週2回程度の外来通院での『PICO創傷治療システム』を使用することもできます。

創傷に関し、もし難渋するような症例がありましたら、軟膏治療や手術療法を含め検討させていただきますので、お気軽に当科へご相談いただけますと幸いです。

さまざまな創傷の治癒が早まる 局所陰圧閉鎖療法（NPWT）